

Crescendo

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど

Vol.117



狂言 野村万作・野村萬斎



Miyazakiアウトリーチ アーティスツ・エキシビション#2

狂言 野村万作・野村萬斎

「演劇・時空の旅」シリーズ#7
1953年／フランス『ゴドーを待ちながら』

Premium Select Concert#4
チェロを聴く ～巨匠のデュオ～

Miyazakiアウトリーチ アーティスツ・エキシビション#2



©鍋島徳恭

チェロを聴く ～巨匠のデュオ～



1953年／フランス『ゴドーを待ちながら』

メディキット 県民文化センター

公益財団法人 宮崎県立芸術劇場

薪能の夜に

先日、久しぶりに延岡の「天下一薪能」に行き、人間国宝の片山幽雪さんと九郎右衛門さん親子の舞台を堪能しました。その席で囃子方の笛と鼓を聴いているうちに、随分昔の古典音楽との“共演”を懐かしく思い出しました。NHKの京都局で新人の頃、先輩の作る嵯峨野を舞台にしたドキュメンタリー制作を手伝わされた時です。編集の後、音楽を付ける作業で、藤舎推峰さんと呂悦さんという笛と鼓の若手演奏家がスタジオに現れました。お二人にフィルムに合わせて曲を作り即興で演奏をしてもらおうという斬新な試みでした。

そこで推峰さんが2か所ほど笛とウッドベースの演奏にしたいと言いました。たまたま私が学生時代にフォークソングのバンドでベースを弾いていた話をしたら、一緒にやりましょう!と言うのです。尻込みしている私の前で推峰さんがCやAmといった演奏コードを書き始め、リズムは鼓の呂悦さんが合図を出すからその通り弦を弾けばいいと言います。数回練習して、二人に目で励まされながら緊張の極みの中で必死の演奏と言うか、無我夢中の時間を過ごしました。お二人がよかったとは言ってくださったものの、シロウトにこんなことさせてNHKもいい加減だなと思ったものです。

あれから40年近く経って、国立劇場の楽屋に藤舎推峰さん、今は笛の世界で重鎮の名生さんをお訪ねすることがありました。京都での懐かしい話をしたら、名生さんはきょとんとされ全く記憶にないと言います。ジャズや舞踊とのコラボで活躍され古典芸能界の寵児と言われた名生さんは、「若い頃は面白がっているんなことやりましたからねえ」とフォローしてくれましたが。

館長の仕事をお引き受けして早くも1年近くがたちました。少しずつ新しいこともやりたいなと思うことの中に、古典芸能の世界で活躍する演奏家が他のクラシックやジャズとクロスカルチャーする舞台をシリーズでという企画もあります。この3月には狂言の野村万作さんと萬斎さんの親子が劇場で公演されます。お二人とも多様な世界で古典の枠を広げ豊かにしてこられた方で、お会いして是非お話をお聞きしたいものだ、と、薪能の夜に密かに思いました。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場理事長 佐藤寿美

今年度を「笑い」で締めくくる狂言公演!

人間国宝の**野村万作**と、幅広い分野で活躍する**野村萬斎**が出演し、子どもから大人まで楽しめる人気の演目を披露します。

◆狂言ってなあに?

室町時代に誕生し、600年以上受け継がれてきた日本の伝統芸能のひとつで、2001年に『能』とともに、ユネスコの世界無形文化遺産の第1号に認定されています。庶民の日常を題材にしたものが多く、大がかりな舞台装置を使わずに、型による言葉やしぐさによって表現します。狂言の一番の特徴は「笑い」で、現代に通じる人間の本質や喜怒哀楽がコミカルに描かれます。

◆「猿にはじまり狐におわる」!?

狂言の修行には、「猿にはじまり狐におわる」と言う言葉があります。“猿”とは、『**鞆猿**』に出てくる猿回しが連れている子猿の役で、多くの狂言師が最初に演じる役。野村万作さん、萬斎さんも3歳の時にこの役で初舞台を踏んでいます。“狐”とは、最高度の技術を要求される『**釣狐**』のシテ(人間に化ける古狐)の役のこと、狂言師の卒業試験と呼ばれる秘曲です。

NEWS 『釣狐』を極めた野村万作!

初舞台から今年で80年を迎えた野村万作さんは、25歳の時に初めて最難関の演目『**釣狐**』を演じ、46歳で芸術祭大賞を受賞。これまでに30回近くこの『**釣狐**』を演じてきましたが、体力的に難しくなったとして、2014年11月「芸歴80年記念公演(国立能楽堂)」で、生涯最後の『**釣狐**』を披露しました。公演前の記者会見で、「この節目に少しでも前に進み、自分の求める芸をさらに深めたい」と語っていた万作さん。83歳の今もなお100回の縄跳びなどで体力を維持し、食欲に狂言の道に邁進する円熟の舞台に期待が高まります。



◆効果音も意外なセリフで表現!

- ◎犬の鳴き声 「ビョーツ、ビョウビョウビョウ」
- ◎うぐいすの鳴き声「ツキホシヒー(月星日)」
- ◎蚊の飛ぶ音 「プー」
- ◎お酒を注ぐ音 「ドブドブドブ」
- ◎鐘の音 「ジャーン、モンモンモン」
- ◎くしゃみの音 「クッサメ」
- ◎軽い玄関の戸を開ける音「サラサラサラ」



狂言の世界へようこそ!



野村万作(右)と萬斎(実際の演目と異なります)

◆狂言に登場するのは!?

狂言には名前のある役は少なく、武士である大名、主人、家来である太郎冠者、百姓、商人、職人、役人など中世の庶民を中心とする親しみやすいキャラクターが多く登場します。人間以外では、犬、猿、馬、牛、狐、狸などの動物、神様、精霊、鬼なども登場します。

ご挨拶



このたび、宮崎県立芸術劇場「狂言」野村万作・野村萬斎公演で、久しぶりに宮崎の皆様へ、師父・万作をはじめとする私ども万作の会の「江戸前狂言」をご覧頂くことになりました。今回ご覧頂く『佐渡狐』と『二人袴』は、いずれも中世の人間味溢れる人物たちが活躍する、目度(めど)のある狂言です。年度末の慌ただしい時期ですが、爽快感のある笑いの空間を共有し、発散することで、明日への活力として頂ければ幸いです。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

野村萬斎

◆知っておこう! 狂言用語

- ◎「番組」… プログラム
- ◎「曲」… 演目(作品)のこと
- ◎「シテ」… 狂言の主役、漢字では「為手」「仕手」と表記
- ◎「アド」… 相手役
- ◎「後見」… 舞台正面に向かって左後奥に控えていて、進行を見守る人。装束を直したり小道具の受け渡しなど演技の世話もする。また、不測の事態、たとえば演者がセリフを飛ばしてしまった時などに助けるのも後見の役目。
- ◎「奏者」… (『佐渡狐』に登場) 公家や武家において上位の人に取り次ぎをする者
- ◎「太郎冠者」… (『二人袴』に登場) 使用人、従者のことで、2人以上の従者が登場する場合は、年齢や位が上の者から順に太郎冠者、次郎冠者となる。
- ◎「聲入り」… 結婚後はじめて聲が嫁の実家を訪れること、またその儀式のことで、婿養子に入ることではない。

公演情報

狂言 野村万作・野村萬斎

3月31日(火) 開場18:30 開演19:00

【出演者】野村万作 野村萬斎 ほか
解説: 高野和憲

【演 目】『二人袴(ふたりばかま)』野村万作
『佐渡狐(さどぎつね)』野村萬斎

【会 場】演劇ホール

【入場料】全席指定
S席 6,200円 [会員 5,600円]
A席 5,100円 [会員 4,600円]
学割(小学生~大学生) 2,500円 ※A席のみ

「演劇・時空の旅」シリーズ#7 1953年／フランス

ゴドーを待ちながら

EN ATTENDANT GODOT

©作:サミュエル・ベケット ©訳:安堂信也 高橋康也(白水社刊) ©演出:永山智行(宮崎県立芸術劇場ディレクター)

「演劇・時空の旅」シリーズについて

宮崎県立芸術劇場が演劇作品を創造し、県内外に発信していく事業です。演劇の歴史は、まさに人類史とともにあり、2500年ほどの昔から、現在まで、さまざまな戯曲が書かれ、上演され、記録に残されてきました。このシリーズでは、それらの戯曲をガイドブックに、時間と空間を旅しながら、人類史をたどっていきます。

○不条理≡ナンセンスコメディ

2014年11月下旬、宮崎県立芸術劇場の地下1階にある練習室で『ゴドーを待ちながら』のプレ稽古が行われました。4人のメインキャストとWキャストの少年役(1人は本当に13歳の少年)が全員集まったのは、この日が初めて。若干の緊張感が漂うなか、演出を手掛ける永山ディレクターによる挨拶の後、すぐに本読みが行われました。

「不条理演劇の代名詞にて最高傑作」とも称される『ゴドーを待ちながら』。私たちが「不条理演劇」と聞いたときに思い浮かべる、なんとも難解で、ほの暗く重たいイメージとは反対に、この日の本読み稽古では、所々のシーンで笑いが起こり、重苦しい空気はまったく漂ってきませんでした。「不条理演劇」は、言ってしまうとブラックジョークを含んだ「ナンセンスコメディ」なのです。

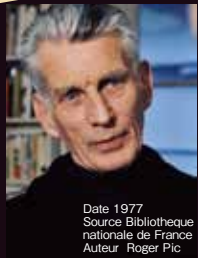
そのことを象徴するかのように、『ゴドーを待ちながら』の主人公2人は欧米のミュージックホール(寄席)の芸人をモチーフに書かれ、1953年のパリでの初演の際には、主人公の1人は本当にミュージックホールの俳優が演じていました。



サミュエル・ベケット

Samuel Beckett

<1906.4.13 - 1989.12.22>



Date 1977
Source Bibliothèque nationale de France
Auteur Roger Pic

初演から5年後には20か国語以上に翻訳され、現在も世界各地で上演されています。

ベケットの特異な作品世界は、現代演劇に大きな影響を与え、不条理演劇を語る上で欠かせない存在となっています。

○常に時代を反映する「ゴドー」

『ゴドーを待ちながら』の場所を示すト書きは、「田舎道。一本の木。」だけ。この寂しさの漂う道端で、主人公エストラゴン(ゴゴ)とヴラジミール(ディディ)は、暇つぶしの漫才とも思える奇妙なやり取りを繰り返しながら、決して現れないゴドーをひたすらに待ち続けます。そのシュールな姿は、「ゴドー」が舞台上に登場しないがゆえに「神(God)を待つ人を表したもの」や「幻想を抱く人を諷刺・批判したもの」など、観る人によってさまざまな解釈がなされてきました。世界中で繰り返し上演されているのも、そんなところに理由があるのかもしれませんが。

「演劇・時空の旅」シリーズ版でも、そのことは変わりません。主人公2人と一緒に観客席で「ゴドー」を待ちながら、私たちは何を思うのでしょうか。



プレ稽古の様子

Message

みんな、コメディアン。

ベケットがチャップリンのファンだったことはよく知られています。そのほかにもバスター・キートンやローレル&ハーディ、マルクス兄弟などの往年の喜劇映画のコメディアンたちがお気に入りだったようで、実際にキートンの主演映画もつくっています。

この「ゴドー」に出てくるゴゴ&ディディ、ラッキー&ポッツォの二組のコンビも、たたずまひはまるで喜劇映画のスクリーンから飛び出してきたコメディアンのようなのです。

けれど、もしかするとわたしたちだって、たとえば映画のレンズから覗いてみたら、どこかおかしいクセを持っていたり、変なことにこだわりのあったり、どうでもいいことで必死になったり、まるでコメディアンのように可笑しい日常を生きている気がします。

今年の時空の旅は、ベケットが覗いたそんなレンズの眼で、2015年のわたしたちの姿を描いてみたいと思うのです。可笑しくて、哀しくて、けれど愛おしい人間の姿が、そこには見えるような気がするのです。

演劇ディレクター 永山智行

あしたに

なれば、

万事うまく

いくよ。

夕暮れ。なんにもない場所。ただ木が一本。木だけが生きている。そんな場所で、ふたりの男、ゴゴとディディはゴドーを待っている。とりとめのないおしゃべりを繰り返しながら……

ナンセンスコメディ 不条理演劇の代名詞にして最高傑作を上演!

出演者を代表して、宮崎出身のお2人に公演に向けてコメントをいただきました!



FUKAIPRODUCE羽衣／東京

日高啓介 ※宮崎出身

こんにちは。皆さま初めまして！
わたくし日高啓介と申します。宮崎生まれの宮崎育ち、生粋の宮崎っ子です。東京の、FUKAIPRODUCE羽衣という劇団で歌ったり踊ったり台詞を言ったりしています。

今回、「演劇・時空の旅」シリーズに参加させていただく事になり、とても嬉しく思っています。そして今回の「ゴドーを待ちながら」という戯曲、役者として一度は演じてみたい不朽の名作なのです。

このお芝居は、不条理劇とよばれ一見難解な様に感じますが、構えず肩の力を抜いて気楽に観ていただければ、人間の滑稽さ、愛らしさが見えてきて、とても楽しいお芝居です。

おっさんたちが、彼らなりに必死に生きている様を描いた悲喜劇。どうぞ、劇場で味わってください。



劇団こぶく劇場／宮崎

濱砂崇浩 ※宮崎在住

どうも、宮崎は都城の劇団こぶく劇場で11年ほど演劇をやっています。濱砂と申します。

最近は、俳優だけでなく「ザ・わざおきーず」という演劇ユニットで劇作と演出もやっています。笑いの劇を作ったりしてます。

「ゴドーを待ちながら」は10年くらい前一度、読んだことがあるような気がします。でも、話がよくわからなかったみたいで、あまり覚えていないのです。そして、今回出演することになり読んでみると、やっぱり、よくわからない。登場人物がしゃべることも、そこで起こる出来事も、突拍子がなくて、「んー、どういうこと?」ってはてなマークが頭に浮かんでくる。それで思ったのです。これは、わからなくていいじゃないかって。その突拍子のなさこそが「笑い」のもとで、この作品はシュールな喜劇なのだ。

この不条理な答えのない劇を、自由にいろんなことを想像しながら、好きなところで笑って楽しんで観てもらえればうれしいです。わからないものの奥にあるおもしろさが、この作品には詰まっているような気がします。



みんなでつくる“お好み時空寄席”を開催!



欧米のミュージックホール(寄席)の芸人をモチーフに『ゴドーを待ちながら』が書かれたことにちなみ、公演と同じ舞台を使って公募で選ばれた一般参加者と「九州俳優の会」選抜メンバーらの漫才による寄席を開催します。一般参加者の募集は1月23日(金)まで。九州の劇作家による大喜利もあります。詳しくは公演専用ホームページをご覧ください。

2月14日(土)
14:00~16:00
会場:イベントホール

公演情報 「演劇・時空の旅」シリーズ#7

1953年／フランス『ゴドーを待ちながら』

2月13日(金) 開場18:30 開演19:00

14日(土) 開場17:30 開演18:00 ★14:00~お好み時空寄席

15日(日) 開場13:30 開演14:00 ★終演後に演出家と出演者によるアフタートークあり

【会場】イベントホール

【入場料】全席自由

一般 3,100円 [会員 2,800円] 学割(小学生~大学生) 1,500円 ペア券(一般2枚) 5,100円 ※前売りのみ

【出演者】寺田剛史(飛ぶ劇場) 濱砂崇浩(劇団こぶく劇場) 日高啓介(FUKAIPRODUCE羽衣)

山下晶(グレコロマンスタイル) 上杉一馬(劇団「夢」)* 小田翔吾(宮崎公立大学演劇部)*

*:Wキャスト

●三股公演

【会場】三股町立文化会館

2月19日(木)

開場18:30 開演19:00

チェロとピアノの巨匠に聞く！10の質問

幼い頃の夢や、お互いの第一印象、楽器との出会いなど、2人の巨匠の素顔に少しでも迫ってみました！



Q1. 楽器との出会いはいつですか。

堤：8歳のときにヴァイオリンからチェロに転向しました。

野平：物心がついたとき。家に母が嫁入り道具として持ってきたピアノがありました。

Q2. 幼いころの夢は何でしたか。

堤：機関士になりたいと思っていました。

野平：デパートの包装紙の裏に五線を書いて3～4小節くらいの曲を書いていたので、作曲家ということでしょうか？

Q3. お互いの第一印象を教えてください。

堤：超人的な才能の持ち主だということです。

野平：学生時代から聴いて尊敬していたので、共演できたことがとてもうれしかったです。

Q4. お互いに尊敬するところはどこですか。

堤：もの凄く忙しいのにとても人間的なところです。

野平：音楽への集中力。聴衆の心をわしづかみにする演奏。すべてのレパートリーへ精通しているところです。

Q5. 楽器の一番の魅力は何ですか。

堤：色々ありますが、やはり「音」そのものではないでしょうか。

野平：1人ですべてを表現できること。それでいて、まったく異なる発音媒体の楽器と、音色が簡単に交わり会話ができることです。

Q6. 演奏で一番心がけていることは何ですか。

堤：お客様と個々の作品の持つ素晴らしさを共有することです。

野平：(共演の場合)人を立てることによって、自分を生かすことのできる演奏を考えることです。

Q7. 宮崎の印象を教えてください。

堤：南国的で、人間的な意味を含めてとても豊かな感じがするところです。

野平：温暖な気候、おいしい酒と肴があること、時間がゆっくりと流れている(すべて音楽への集中のためです！)。

Q8. 一番好きな曲を教えてください。

堤：とても一曲にはしきれません。敢えて言えば自分がその作品に共感し、共鳴出来た時でしょうか。

野平：ドビュッシーの「海」。
(理由)自分が考える音楽そのもの、フレキシブルな構成、新しい空気、どこをとっても美しく驚きの展開があることです。

Q9. 一番好きな作曲家を教えてください。

堤：ブラームスの作品が自分に合っているのかな、とは思いますが。

野平：ベートーヴェン、ドビュッシー、ブーレーズ。
(理由)その前衛性、その柔軟性と他の分野へ開かれていること、その論理と非論理の混合、後者2人はその音響の美しさ。

Q10. 公演に向けてコメントをお願いします。

堤：野平さんは作曲家としてだけでなく自身の広い芸術性、人間性を持った音楽を創っていかれるので、それに触れ合えるのがとても楽しみです。

野平：再び宮崎の皆さんの前での堤先生との共演、本当に楽しみです。特にシュニトケは初めて先生と演奏するので、どんなことになるのか。この作曲家の独特な音楽を、十全に表現したい。そして名曲中の名曲、ベートーヴェンの3番のソナタの持つすべての革新性を堤先生と一緒に暴きだしたいと思っています。

公演情報

Premium Select Concert #4

『チェロを聴く～巨匠のデュオ～』

1月25日(日) 開場13:30 開演14:00

【曲 目】J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007より プレリユード
ベートーヴェン:チェロ・ソナタ 第3番 イ短調 Op.69 ほか

【会 場】アイザックスターンホール

【入場料】全席指定

一般 3,100円 [会員 2,800円]

学割(小学生～大学生) 1,000円

Daichi Fujiki

藤木大地のCanterbire



藤木 大地

2012年、日本音楽コンクール第1位。カウンターテナーとして史上初の優勝者となり、話題となった。13年にボローニャ歌劇場にデビュー。14年と15年にはNHKニューイヤーパーラコンサートに2年連続出演し、さらにはウィーン国立歌劇場と2014/15シーズンの客演契約を結ぶなど、国際的な活動を展開する現在最も注目を集めるアーティストのひとりである。東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所修了。新国立劇場にテノールとしてデビュー後、ボローニャ、ウィーンに留学。11年にカウンターテナーに転向。12年国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクール世界大会にてハンス・ガボア賞を受賞。宮崎市出身。ウィーン在住。

Canterbire 最終章

夢に向かって頑張ってるね！夢を追っていてイイね！音楽を志してから、いつもそう言われてきた。20代も半ばになると、で、どうやって食べてるの？と訊かれることもあった。学校を卒業して企業に就職した人を「社会人」と呼ぶ日本では、音楽という「仕事」は一般的ではないのかもしれないね。

ぼくは音楽や芸術を特別な夢だとは考えていないのだ。夢なんか追っていない。ただ歌うことが大好きで、漠然とした大きい目標と明確な小さい目標をもって、音楽の世界での修行に邁進してきた。いまもしているし、これからするだろう。歌がうまくなりたいだけなのだ。

どんな演奏家も、この世に放たれた偉大な作品の一部である。ぼくたちが広い世界の一部であるように。演奏会のあとに「感動しました」って言うてもらえるのはとてもうれしいけれど、音楽の感動は演奏家の手柄ではなく、自己満足からは生まれない。芸術に真摯に謙虚に向き合った才能と努力と能力と精神が化学反応を起こしたとき、ひとの心を揺さぶるのは、いつも音楽そのものの力なのだ。

音楽を夢にしなかったぼくはラッキーだった。現実世界で多くの愛と助けと出会いと気づきと学びがあって、かつてもっていた漠然とした大きな目標より、ずっと先のずっと高いステージでいまは歌うことができています。この人生の大冒険を応援し、支えてくださっているたくさんのみんなに心からの感謝をしています。

コラムはこれが最終楽章です。つぎはいつみなさんにお会いできるでしょうか。ぼくはこれからどこにいくのでしょうか。5年後のことなんかわからない。いまから5年前、ぼくがカウンターテナーで歌っていることを予言したノストラダムスはどこにもいなかったんだから。

ぼくは自分の音楽人生を“クレッシェンド”するためにベストを尽くします。そのフォルテッシモをふるさと宮崎にこれからも奏でます。このオペラの楽譜の最後の小節には、フォルテはいくつあってもいい。ffffffffffffffff、てげ鳴らすじ。

また会いましょう。ありがとう！アディオス！

今後の活動などはこちらをCheck!

オフィシャルブログ「藤木大地の大冒険」

<http://www.daichifujiki.com/blog/>

県内各地に音楽を届けてきた第2期アーティストの集大成コンサート！

『Miyazaki アウトリーチアーティスト・エキシビション#2』



●出演する第2期アウトリーチ登録アーティストの2人からコメントが届きました！



柳田 美波
(ホルン)
※日向市出身

県内の様々な場所へ音楽を届けてきました。演奏後、頂いた言葉で一番嬉しかったのは「ホルンってきれいな音がするんですね」と言われたことでした。人によっては、生のホルンの音色を聴くのは初めてかもしれないと思っていたので、できるだけいい音で演奏する様、心掛けてきました。楽器体験をした際に、音が出た時の子ども達の嬉しそうな表情は忘れられません。コンサートでは、皆様に感謝の気持ちを込めて、演奏したいと思います。



福田 真子
(ピアノ)
※高鍋町出身

アウトリーチを通して県内の各地に赴き、様々な体験、多くの感動を得ました。どのようにしたら音楽の素晴らしさが伝わるのか、曲目や構成を考え、演奏会ごとの反省会、アドバイスを頂き、より充実したものを目指してきました。子供たちの反応を直に受け取り、音楽の力を強く体感することができました。エキシビションコンサートでは、子供たちにももらったパワーと、少しでも成長した姿をお見せできるよう心を込めて演奏します。

●実施した学校の担当の先生に感想をいただきました。



上野小・中学校で実施した音楽アウトリーチの様子(H26.11.20)

上野小・中学校の図書室で小さな音楽会が開かれました。第1部(小学1年～5年生)は、ピアニストの福田さんの演奏会。ピアノから溢れだす音符が、あっという間に子どもたちの心に浸透し、終始心のドキドキやワクワクを隠せない表情で演奏会を楽しんでいました。

第2部(小学6年～中学3年生)は、ホルン奏者柳田さんの演奏会。世界一演奏が難しいとされるホルンからは、美しく力強い音色。そして幼なじみでもあるピアニストの高場さんとの演奏は息もぴったりでした。幅広い曲目で子どもたちを魅了させ、アンコールでは生徒の合唱も参加し、すてきな音楽空間を共有することができました。彼女たちの奏でる音楽が私たちの心を満たしてくれた時間になりました。2月末のコンサートでは、これまでの成果を存分に発揮され、ますますご活躍されることを期待しています。

高千穂町立上野小・中学校 教諭 西浦 都貴

メディキット県民文化センター 自主事業公演チケット情報

(宮崎県立芸術劇場)

2月1日(日) 開場13:30
開演14:00

チケット発売中

アイザックスターンホール

パイプオルガンプロムナード・コンサートvol.146

オルガン
de
ブランチ

ベルギー出身の
才能豊かな
男性オルガニストが
宮崎初登場!

出演者: ジャン＝フィリップ・メルカールト

入場料: 全席自由

小学生以上 500円

親子チケット(小学生とその保護者2人1組) 500円

※前売りのみ

Attention (ご注意)

- ・記載情報は変更になる場合があります。・学割は、小学生～大学生が対象です。
- ・就学前のお子様の入場はご遠慮ください。
- ・当日券が出る場合は、500円増し(学割・オルガンdeブランチを除く)になります。

1月12日(月・祝)
開場13:30 開演14:00

アイザック
スターンホール

オルガンとその仲間たちシリーズ2014

イタリア・バロックの魅力

～イタリア古典歌曲集のふるさとをたずねて～

全席指定 入場料: 一般2,100円(会員1,900円) 学割1,000円

チケット発売中

1月18日(日)
開場13:30 開演14:00

イベントホール

'14みやざきの舞台芸術シリーズⅡ

叙情と熱情 ～ピアノトリオが誘うスペイン・ロシアへの旅～

全席自由 入場料: 一般2,100円(会員1,900円) 学割1,000円

チケット発売中

1月25日(日)
開場13:30 開演14:00

アイザック
スターンホール

Premium Select Concert #4

チェロを聴く～巨匠のデュオ～

詳細は5P

全席指定 入場料: 一般3,100円(会員2,800円) 学割1,500円

チケット発売中

2月13日(金)
開場18:30 開演19:00

2月14日(土)
開場17:30 開演18:00

2月15日(日)
開場13:30 開演14:00

イベントホール

「演劇・時空の旅」シリーズ#7

1953年／フランス『ゴドーを待ちながら』

全席自由 入場料: 一般3,100円(会員2,800円) 学割1,500円

ベア券(一般2枚)5,100円

チケット発売中

◆三股公演 2月19日(木) 18:30開場 19:00開演 会場: 三股町立文化会館
問合せ: 三股町立文化会館 TEL.0986-51-3462

2月28日(土)
開場13:30 開演14:00

アイザック
スターンホール

Miyazaki アウトリーチ

アーティスト・エキシビション#2

詳細は6P

全席自由 入場料: 一般2,100円(会員1,900円) 学割1,000円

チケット発売中

3月7日(土)
開場18:30 開演19:00

3月8日(日)
開場13:30 開演14:00

イベントホール

チェルフィツチュ

『スーパープレミアムソフトWバニラリッチ』

全席自由 入場料: 一般3,000円(会員割引なし) 学割1,500円

主催: チェルフィツチュ、プリコグ 共催: 公益財団法人宮崎県立芸術劇場

一斉販売 1/11(日)

3月31日(火)
開場18:30 開演19:00

演劇ホール

狂言 野村万作・野村萬斎

詳細は1.2P

全席指定 入場料: S席6,200円(会員5,600円) A席5,100円(会員4,600円)

学割2,500円 ※A席のみ

チケット発売中

NHK交響楽団演奏会 宮崎公演

N響音

胸を打つ珠玉のプログラム



下野竜也
(指揮)
©Naoya Yamaguchi



竹澤恭子
(ヴァイオリン)
©Tetsuro Takai

公演情報

NHK交響楽団演奏会 宮崎公演

3月3日(火) 開場18:15 開演19:00

全席指定

【会場】アイザックスターンホール

【出演者】下野竜也(指揮)

竹澤恭子(ヴァイオリン)

NHK交響楽団(管弦楽)

【曲 目】ロッシェニ: 歌劇「シンデレラ」序曲

メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

ドボルザーク: 交響曲 第8番 長調 作品88

【入場料】S席 6,000円 [会員5,400円] A席 5,000円 [会員4,500円]

B席 4,000円 [会員3,600円] C席 3,000円 [会員2,700円]

主催: NHK宮崎放送局、NHK交響楽団 共催: 公益財団法人宮崎県立芸術劇場

お問合せ



宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

〒880-8557 宮崎市船塚3-210 <http://www.miyazaki-ac.jp/>
TEL.0985-28-3208 FAX.0985-20-6670

twitterとfacebook随時更新中! 「フォロー」と「いいね!」をお待ちしています。